

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 溥姚会		
事業所名	グループホーム ひかる (1階、2階 ユニット合同)		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102394-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が経営しており、24時間医師との連携が図れるため入居者の家族より安心して頂いています。また従業員も安心して働く事が出来ています。季節ごとに飾り物や花を変えたり、入居者と一緒に季節にちなんだ催しの飾り物を作ったり、行事に出掛けたりして、常に四季を感じてもらえる様な支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜松市の南東部、郊外に広がる田園風景の中に事業所はあります。法人母体は内科医病院であって、24時間体制のうえ、看護師も週3日勤務しているため、医療連携が充実していて家族と職員の安心に繋がっています。また、介護と医療両面から利用者の状態を多面的に見られることも利点のひとつになっています。地域との交わりも深まってきていて、事業所の夏のバーベキュー大会には近所の人たち40人程が参加し、ちらし寿司、かけ氷などで利用者と共に楽しんでいます。職員の安定がケアサービスにも反映するとして、専務理事が毎月個人面談を行うなど、働きやすい職場環境づくりにも力を注いでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に事業所の理念を伝えている。また月1回の会議の場で確認して共有している。	理念は玄関や事務所などの目につく場所に掲げられていて、常に介護の中心に置くよう会議の中でも伝えています。時に、友達、同僚、母、そして職員としてなど、多くの役回りを当たり前のように、その立場に成りきって接している姿に浸透が見られると管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、日常的な活動には参加出来ていない。周辺の方とは散歩やかかりつけ医への受診の際に、多く会話をもつ様に心掛けています。	自治会に加入していて、地域の祭りでは駐車場が休憩所になり、練りを披露してくれています。学習障害者や中学生、社会人の福祉・介護体験も受け入れています。テンドン、踊り、ハーモニカ、遠州花笠会など地域のボランティアの来設も豊富にあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けた際には話を聞いたり、様々な介護サービスについての説明を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出た意見を、サービスの向上に努めています。	2ヶ月に1回、損保代理店、薬剤師など多彩なメンバーが集い、開催されています。なかでも、家族の参加が多くみられ、良好な関係にあることが視えます。家族からは「津波避難時には職員がまず先に逃げてくれ」との言葉が寄せられるなど、率直な意見交換の場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の提供や入居に関する相談に対応して、事業所の状況を伝えています。	運営推進会議には行政担当者が出席し意見や情報を寄せてくれています。事業所でも、担当部所に出向いては介護保険や入居相談など、関係作りを図っています。毎月介護相談員の訪問があり、異なるチャネルからの利用者情報が挙がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には常に拘束を行わない介護の実践を心掛ける様に伝えている。入居者には、入居時の契約の際に説明をしています。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、日中の玄関施錠はありません。スピーチロックには特に気を遣っていて、会議で話し合い、職員間でも注意し合える関係ができています。落ち着かない利用者には安定するまで寄り添い、遮らない取り組みをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設でのケース等を参考にして、職員間での行動、言葉使いに注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関して学ぶ機会を設ける事は出来ていません。今後、機会を設ける様に検討します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって説明を行い理解を得てから契約の署名をもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの要望に関しては、必要に応じて会議の場で話し合いを持ちます。家族の方とは、面会の際や行事の時等に意見を聞く様にしています。	仕事帰りに気軽に立ち寄る家族が多く、また言い易い雰囲気を作ることで意見が聞けています。本部の「溥姚通信」の中にコーナーを設け、請求書と一緒に家族に情報を発信しています。恒例になった虚空蔵尊参りは利用者の希望から実現したものです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議の場で意見を聞き、要望をまとめて理事長に伝えるケースもあります。	月1回全体会議、ショートカンファレンスは毎日行い、話し合いの中で職員意見を聞いています。働きやすい環境を作りたいとの思いから、専務理事が毎月個人面談を行っており、またその個人面談の機会を待っている職員もいるというほど、風通しがよい職場になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持って働ける様に職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やレベルに応じて、研修を受ける機会を設けて、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や、他施設での行事に参加する事で交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安で落ち着かないケースもあるので、本人と話す時間を多く持ち、家族も含めて安心して生活出来る環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時に、ゆっくりと話を聞いている。その中で、今後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話をすることで、必要な支援を見極め対応する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内では、共に生活する事を常に考えている。出来る事をやってもらい、出来ない事の見極めをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も外出や面会、行事への参加を促し、また面会時に最近の様子を伝える様にして、常に共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居時に馴染みの品を持ってきてもらう様をお願いしている。また本人の希望を聞いて、家族に外出をお願いする事もある。	家族の面会のほか、同僚、友人の訪問もあります。ペン字、編み物、家庭菜園など、在宅の頃からの趣味を続けることができおり、囲碁などは管理者が教えてもらっているほどです。馴染みの美容院や墓参りには家族と出かけたり、年末年始に外泊する利用者も多くいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、必要に応じて職員が中に入り話を聞き、孤立する様な事がない様な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後も、知人の入居の相談を受けたり、必要に応じて、他施設への様子伺いに出掛ける様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時に、本人の希望を確認している。	発語や思いは「入居者個人ファイル」に記録し、職員で確認しあっています。シャワー嫌いな利用者に桶で掛け湯をしたところ、受入れたなどは、なぜ嫌いなのかを考えて試した一例であり、掃除などもやってもらう事で意向の把握に繋がったこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、本人、家族、ケア等から過去の生活歴や他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は日報に記録し、心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方については、本人や家族の希望、現状を考えて、本人がより良く暮らしていくための介護計画を作成している。	担当制を敷き、カンファレンスの中ではケアプランに沿ったサービスが実施できているか確認しながら詳細を変更しています。面会時に家族から意向を聞いていて、安定している利用者には1年に1回モニタリングを行い見直しており、ケアマネージャーがプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果は、日報に記録して職員間で情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や、家族の状況を常に考えて、グループホーム以外のサービスを検討する事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の暮らしを支えている地域資源の把握に努め、生活を楽しんでもらえる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をして、適切な医療を受けられる様に支援している。	母体の医療機関が協力医になっていて、24時間対応で往診もあるため、殆どの利用者が替わっています。協力医はまた、皮膚科、泌尿器科、アレルギー専門医でもあるため、大きな安心となっています。看護師が週3日勤務しているため、医療との連携が円滑に行えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職が一つのチームとして連携し、情報を共有出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて、総合病院への連携がとれている。入院時には、面会に行く際に病院の関係者と情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、状態の変化があった時に医師を含めて話し合いを持ち、その都度、ご家族の希望を確認し、それに沿った支援に努めている。	入居時から家族とは合意形成が出来ていて、医療連携も密であることから、今年度は2件の看取りがありました。緊急時には、本部の院長にすぐに連絡し、適切な指示があるため職員にも安心感が生まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを利用し、急変時の対応方法の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での避難訓練の実施や、点検業者や消防署と連携しての通報訓練、消火器等の設備の取り扱いを職員に行っている。	避難訓練が年2回あり、消防署への通報訓練や消火器を使つての消火訓練も行っています。地域から「避難場所として」との求めもあり、信頼関係の強さが視えます。スプリンクラーの設備があり、在庫管理表に基づいて10日分の非常食を備えています。	事業所にはAEDの設置もあるため、近隣の人たちに呼び掛けて、AED・心肺蘇生の講習などを行い、更に頼られる事業所として、地域の中で輝くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対して、失礼のない声かけを心掛けている。居室やトイレへの入室の際には、ノックする事を忘れない様にしている。	失禁時など、職員間で連絡が必要になった時には、イニシャルトークの手法で記号に替えた会話を心がけ、利用者の尊厳を守っています。入浴時の同性介助にも配慮しています。入室時のノックで居室を確認したり、丁寧な声掛けで相手を慮る対応も視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の職員との会話で、希望を言ってもらい、それに沿った援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は、特に決まりを設けていない。季節や天候に応じて、個人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい服装をしてもらっている。外出時にはお化粧をしたり、帽子をかぶったりと個人の好みに合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備、片付けを一緒に行ってもらい。食事時も、介助は最低限にして自分で食べる事の出来る環境作りを努めている。	食事介助は出来るだけしないのポリシーを持ち、出来得る限り自立食を見守っています。外食は年3～4回あり、出前寿司をとることもあります。週1～2回は手作りのおやつがあり、ホットケーキ、ゼリーなどの参加型で利用者も楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や体重の増減を確認し、十分な食事、水分量が確保出来る様に食事形態や自助具の活用等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄、スポンジを用いてのケア等、個人の能力に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には、パターンを確認して日中はトイレでの排泄援助を心掛けている。また普段はオムツでも、排便はトイレで促す等、入居者が不快にならない様な援助を常に心掛けている。	排泄パターンを把握からトイレ誘導しているため、日中は殆ど紙パンや布パンで過ごすことができています。オムツからパットまたは布パンで過ごせるようになった改善例もあります。排便間隔があいた利用者には運動を促して排泄に繋げるなど、薬に頼らない支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用するだけでなく、水分を促したり、ヨーグルトを食べたり、トイレ誘導時の腹部マッサージ等、様々な方法で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間の設定は行っていない。基本は隔日で入浴しているが、毎日の希望がある時には出来る限りの支援をしている。	1日おきの入浴をめやすに、湯を毎日はっており、希望があれば毎日入浴することもできます。入浴嫌いには、ドリフの「いい湯だな」の歌声を唄いながら浴室に誘導したケースもあり、工夫が見られます。時には柚子湯などの行事湯で楽しむこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はエアコンや加湿器で室温の調節をしたり、掛け物の調整をしている。日中も、疲れがあれば、休息の時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を用いて、用途の理解に努めたり、看護師より服薬時の注意事項を説明する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	環境整備から洗濯、調理等、それぞれの能力を発揮できる役割をお願いしている。また外出や買い物の機会を設けて気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物だけでなく、地域の公園等に遊びに行く機会を設けている。また、本人からの希望には家族の方にも協力してもらい、出かけられる援助をしている。	スーパーや百均にも頻回に買物に行くほか、おやつ食材の購入時に利用者も同行することもよくあります。天気の良い日には、ほぼ毎日すぐ前の小さな祠に寄りながら散歩に出かけていて、冬でも戸外へ出て新鮮な空気に触れるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、個人で財布を管理している方もいて、買い物の際に支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際には、事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、花や飾り物に変化をつけて、入居者に四季を感じてもらえる様な工夫をしている。	センスのよい玄関の花が印象的です。共用空間の和室には雛飾りがあり、季節行事への取組がみられ、また温度湿度計で管理されていて、明るく過ごしやすい空間となっています。夜勤する管理者の事務仕事の傍らで、利用者が編み物をしている和やかな光景もみられるとのこと。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室の他に2階に少人数で会話出来るスペースや、玄関先に長いすを設置して、プランターの花を觀賞しながらお仲間さんで過ごす事の出来る環境づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、馴染みの物を持ってきて頂く様をお願いしている。多くの方が、部屋に使い慣れた物を置いている。	温かい日の光が、全て南向きに配置された居室に差し込んでいます。エアコン以外は持ち込みとなっていて、ベッド、カーテンなど好みのものが使用され、テレビ、筆筒、家族写真など、馴染みのものの持ち込みがあり、居心地の良い部屋作りが出来ています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存能力を活かして、出来る事を探して、自立した生活を送れるように工夫している。		